

# 目の不自由な私たちに、ご理解とご協力をお願いします！

いろいろな病気や事故などにより、人生半ばに視力を失うことがあります。

医学の進歩により、感染性疾患による視覚障害者は少なくなりましたが、食生活や生活環境の変化により糖尿病性網膜症などの慢性疾患、原因や治療法が確立していない病気、あるいは交通事故や災害などによって、人生の半ばに視覚障害者となる方（以降、中途視覚障害者と表記します。）が増えてきています。

現代社会は、テレビ、パソコン、スマートフォンなどをはじめとする電子機器とそれらが発する画像情報にあふれています。これらは、視覚障害者にとって過剰なストレスとなっています。

人は生活に必要な情報の8割以上を目から得ているといわれており、中途視覚障害となった人の多くが、それまでの仕事をあきらめ、仲間との行き来もままならず、社会との断絶を強いられている人が少なくありません。

また、医療の手を離れた後の不安は、回復への執着・焦り、これまでの仕事や人生に対する諦め・失望・無力感などを伴い、その間に、引きこもりの状態に陥ったり、「自殺」の二文字を考えたりしない人はいないと言われています。

このような状況の中で、各地域に中途視覚障害者の会や疾患別友の会が作られ、中途視覚障害者が人生を再出発していく上で大きな励みや支えになっています。

「広島市視覚障害者グループ連絡会」は、視覚障害者にとって安全安心な地域づくり、視覚障害者が孤立することのない環境づくりを進めるために、市内で活動するさまざまな視覚障害者のグループが協力し合おうというところから生まれました。

たとえ眼に障害があろうと、適切な環境さえあれば健常者と変わらない生活をおくることは十分に可能です。

○触って読み書きできるように工夫された文字が点字です。

○足裏の感覚を利用して歩道を正確に歩く事や、バス停や横断歩道の位置を正確に知ることができるように考案されたものが点字ブロックです。

○視覚障害者の存在を周囲に知らせたり、路面の状態を手伝えたり、いざというときに体を支えたりするために考案されたものが白杖（はくじょう）です。

○歩行者用信号が青になったことを視覚障害者に知らせる装置が音の出る信号機です。

○バスや電車にはその行き先や経由地を音声で案内する装置もつきました。

○視覚障害者の安全な歩行をアシストするように訓練された犬が盲導犬です。

○エレクトロニクス技術の進歩によって、テレビ、パソコン、炊飯器、給湯器、エレベーターなど、操作方法やその時々の状態を音声で案内してくれる家庭電化製品や設備も増えています。

○専用の用具やルールを工夫することによって、テニス、野球、バレー、サッカー、ヨット、ロッククライミング、水泳などのスポーツやゲームを楽しむこともできます。

○さらに、安全な外出や居宅生活のためのガイドヘルパー制度など、福祉制度も整いつつあります。

これらの事は、先輩視覚障害者の方々の強い願いと粘り強い努力、それに対する周囲の人たちや社会の理解と協力によってその実現が進みつつあるものです。

このような環境が整っていくにつれて、視覚障害者の生活は以前に比べて格段に便利になりつつあります。

とはいえ、環境が整うだけでは解決できない事もたくさんあります。

- たとえば、点字ブロックがいくら普及しても、その上や横に自転車やバイク・車などが置いてあれば、それは視覚障害者の危険につながります。
- 「住民から苦情があったから」と言って、音の出る信号機やバスの音声行き先案内が止められたり、音量が下げられたりすると、たちまち視覚障害者は自力での外出が難しくなります。
- 盲導犬同伴での利用を快く思われないお店やホテルがあれば、視覚障害者の快適な買い物や旅行は阻害されてしまいます。
- 視覚障害者の特性を十分に理解していないヘルパーの支援を受けることは、かえって視覚障害者のストレスになる場合もあります。
- 私たちにとって使いやすい音声ガイド機能付きの家電製品はそうでない物に比べて割高の物も多いですし、必要な福祉制度を利用するのにも複雑な手続きを求められたり経済的負担を強いられたりもします。 などなど

私たちは、私たちにとっての安全で快適な生活環境が維持され、充実され、機能していくには、私たち当事者の努力は当然の事として、周囲の人たちや社会の理解と協力があってこそ進んでいくものと考えています。

みなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。